

会 議 の 名 称	第3回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	平成31年2月20日（水）午後1時30分から3時まで
開 催 場 所	あま市役所甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 (1) 放課後子ども教室の実施内容について 3 その他
資 料	次第 平成31年度（2019年度）七宝地区放課後子ども教室実施内容（案） 学校別打合せ記録及び生徒数（参考資料）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	1人
出 席 委 員	木全（孝）委員、井村委員、溝口委員、林委員、辻委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、立松委員、鎌倉委員
欠 席 委 員	木全（克）委員、増田委員
事 務 局	松永福祉部長、樋口子育て支援課長、平野主幹、井上係長、川村主任

井村委員長	開会 あいさつ
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 放課後子ども教室の実施内容について
事務局	平成31年度(2019年度)七宝地区放課後子ども教室実施内容(案)、七宝地区学校別打合せ記録及び生徒数について説明。
井村委員長	ありがとうございました。今の説明で何か質疑があればどうぞ。
宮崎委員	基本理念があった上での、他のところから地域の先生を呼んだりだとかいうものはOKということですよ。
事務局	あま市以外のことも知っていただきたいと考えておりますので大丈夫です。
大西委員	小学校の回数ですけれども、一応10回となっておりますけど。それはいいと思うのですけれども。月曜日というと、全部一斉下校になるのですか。
事務局	今の状況ではそうです。
大西委員	9月ですと月曜日は3回あるんですね。そうするとその中の第2とか第3とかそういう格好でやられるわけ。
事務局	月曜日が3週しかないということであれば、どこかの1週は両校同日に実施していくという形になってくるかと思えます。 当然学校との調整後にはなりますが、9月であれば運動会

	<p>の振替休暇となることもございます。小学校の予定も3月末にしか決まってまいりませんので決まり次第日程調整はさせていただきますたいと思っております。</p>
大西委員	<p>2番の実施小学校区2校。七宝で伊福小と秋竹小で大変いいと思いますが、実施する週を第1、第3はどこ小学校で実施するのか決めて実施してはどうかと思います。</p>
事務局	<p>一度調整させていただこうと思います。</p>
宮崎委員	<p>月に2回というのは、とりあえず半年間の仮ですよね。</p>
事務局	<p>仮であります。</p>
宮崎委員	<p>今後増やしていけるようになれば一番いいですよね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
井村委員長	<p>まず動いてみると周りから色んなまた意見が出てくると思いますし、保護者のお母さんたちからも出てくるだろうし、地域の人たちからもまたそれに便乗して、私たちもという。まずやらないと何にもできない。分からないかなと思いますね。とにかく、そこまでまずスタートできるところまで持っていくことが、まず一番かなと思います。他に何か。ご意見ありますか。</p>
立松委員	<p>各小学校定員が一応40名ということで。スタッフをこれから多分募集をされていくと思いますが現在配布されているチラシは七宝用ですか。</p>
事務局	<p>美和と甚目寺の現在実施しているチラシです。 賃金等は美和、甚目寺を基準にして考えてはおります。先ほど言いましたように、40名が本当にいつも40名来るのか、美和、甚目寺と同じような7割程度で30名弱しか来ないのか。というのが不明な点もございますので、そういったところも見ていきながら決めていきたいと思っております。まずは、スタッフは少なくとも4名は必要だと考えていま</p>

	す。
立松委員	4名。固定の4名。
事務局	はい。
立松委員	保護者の協力というお話が今回意見として出ていますが。
事務局	4名全員が保護者であれば一番理想です。
立松委員	保護者を含めた4名。募集をPTA通じて保護者にも声掛けをするという考え方ですか。
事務局	はい。
川原委員	スタッフに関してなんですが、募集をして、スタッフの養成はしていくのか。来ました、すぐ入ってくださいという訳にはいかないと思うんですけど。養成についてはどのような考えがありますか。
事務局	スタッフとして参加していただける方については、実施中の甚目寺、美和も見てくださいまして、子どもをどのようにして見守っていただいているのかを確認していただき、別に研修も考えております。今日ご欠席であります、副委員長の木全委員からレクリエーション協会研修があるとお聞きしております。3月末に開催予定しております研究会で研修内容について木全委員より説明していただきたいと考えております。
川原委員	あともう1点ですが。スタッフの人員が確保できるかというところも非常に重要だと思います。かといって、来てくださった方がどなたでもいいという訳ではないと思います。適正というのを持って選考しなければならないと思いますが、その辺りの選考基準であるとかそういったことはどのように考えてみえるのか。
事務局	今現在考えているのは、履歴書、健康診断書を出していた

<p>溝口委員</p>	<p>だき、事業内容を説明していきながら面接形式で実施いたします。選考するという形になっております。</p> <p>実施する上でお聞きしたいのですが。学校が終われば塾に行く子もいます。学びと遊びを体験したくても放課後子ども教室に通えない子もいると思うので、そのような子ども達も参加できるようにも考えるべきではないかと思えます。</p>
<p>事務局</p>	<p>月曜日だけでは子ども教室に行きたくても、習い事があれば行けない子どもも出てくると思います。そういったことも考えていきながらアンケート調査だとかそういったことも実施していきつつ、他の曜日でスタッフが確保でき保護者の方の協力があれば月曜日以外でも水曜日。イベントは月曜日ではなく月に1回土曜日どこかで実施することも可能です。そういったことを考えていきながらやっていける事業であります。月曜日はあくまでも今が一斉下校で、今時点の一番のいい曜日と研究会での意見をいただき考えた曜日であります。それがほんとに土曜日、日曜日、イベント等を実施していきながら塾があっても来られない子どもも来られるような形を考えていければなというように思っております。</p>
<p>木全（孝）委員</p>	<p>9月にその七宝地区として放課後子ども教室を実施しますというのは地域の方にいつぐらいに周知される予定ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど言いました伊福小と秋竹小という形で募集の方は3月末の研究会が終われば、新年度に入った時点で周知をしていきたいというように考えています。</p>
<p>木全（孝）委員</p>	<p>それは地域の方も含めてですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>各団体、地域の方、校長先生にお手数をおかけしますが、保護者の方に対しての周知文書の配布を考えております。ただ予算が6月議会での確保と考えておりますので案として周知していき、スタッフの確保に努めていきたいと考えております。</p>

木全（孝）委員	9月から実施していくことは早めに周知していただいてという気はしますね。
事務局	周知していこうと思っております。
宮崎委員	何せ月に2回だと。募集かけにくいですよ。
溝口委員	実施内容について私ちょっと考えてみたのですが、大きく分けて3つ。一つは学習活動、自主的な遊び、それから3つ目は体験活動。そういう理解でよろしいのですか。
事務局	そのとおりです。
辻委員	少し話がそれてしまうかもしれませんが、朝日丘のスポーツクラブの事例をこの間聞く機会がありまして、そちらでお母さんたちがすごく活躍をしているという事例をこの間聞いてきました。愛知県の子どもたちの体力はワースト1らしく、すごく低いそうです、全国的に見ても。朝日丘さんの方は15、6年ぐらい前にその事実を受け止めていろいろな教育委員会とかで話をして、のびたくん教室というコーディネーショントレーニングの教室を立ち上げたそうです。地域で住んでいる、ほんとに何もしたことのないお母さん、時間のあるお母さんを3人ぐらい最初に口説き落としして、とにかく資格を取って来て下さい。ってことで3人のコアメンバーの方に資格を取ってきていただいて、その後そのお母さんたちが軸になって朝日丘地区の小学校全部の体育の授業を回ったそうです。その中で、うちの子どもも大丈夫かしらって心配するお母さんたちがだんだんとコミュニティで繋がってきて、資格は取りにいかないけど、資格を持っているお母さんたちについて一緒に仕事をする中でコーディネーショントレーニングってこういうものなんだ。みたいなことを覚えて、今18人ぐらいそういったことを指導できる方がいらっしゃるそうです。そのうちの90%以上が子どもがいるお母さんがやってみえるということで、色んなところで上手いっている。という事例を聞いてきたんですけど。こういった子ども教室をやるにあたって、川原委員も言ってみえましたが、スタッフの適正は大事だと思うんです。子どもたちに何

<p>立松委員</p>	<p>か教えたりするっていうこと。やっぱり勉強することも必要だと思ふし、そう思うと誰でも募集してそれでよしではなく、やっぱり中身を分かっていただいて、趣旨も理解していただいて、尚かつスキルを身につけようという気持ちのある人を見つけてやっていかないといけないのではないかなと私は思います。こういうことをやるにあたって、説明会を設けお母さんたちに強く訴えかけるような場を一度設けていただいてコアになる人たちをまず見つけてやっていただかっていうのはどうか。というふうに思います。きちんと真ん中に立って、色々なことを勉強したり、その勉強したりするのもお金がかかるし、時間もかかるのでそういったところから踏まえてどこからかお金を出したりだとか、そういったことが出来ると長く続く活動になるのではないかなと思います。</p> <p>今のお話で関連するのですが、実際美和でさせていただいた経験からですと、私たち当初実行委員会形式でね、自分も母の立場だったので、まず自分の子どもたちにそういった体験をさせたいっていう思いがあって、中心になって動いてきましたが、結局実行委員会形式でそれ以外の方々はもっと違う方々も入ってきて、私の意見だけではなかなかね、毎日の実施とかそういったこと難しかったですし、お母さん方を巻き込むことができなかつた。例えば宮崎さんのように、実際今自分のお子さんがね、小学校にいてほんとに親御さんたちが中心となって動き始めると、自分の子どもたちに何を体験させたいということであつたりだとか、今みたいにね、運動機能が今やっぱり低下しているとか、家にいればゲームばかりやってしまうとかね。もっと安全な場所で体を動かして遊ばせたいという思いのお母さんたちが今言ったみたいに中心になって何か動かしていったりだとか、そういったことが以前の美和では欠けていて、そういう団体とかに依存しちゃうから、親御さんたちもお任せっていうスタンスになってしまう。だからやっぱりちょっと事例が別かもしれませんけど、読み聞かせの活動が正則小学校でしたが、いまだにずっと続いていて、やっぱりお母さん方がこれを繋いでいるんですね。自分の子どもたちにこういうことの学びを与えたいって思う親御さんが繋いでいくのが多分、いいのかなと。そう</p>
-------------	--

	<p>いう思いを持ってね。自分たちも参加する。自分自身は放課後子ども教室もそうでしたが、別のボーイスカウトというところで、実は指導者としてさっき言った学びも自分も勉強しながら12年間指導者の立場で子どもたちと一緒に遊んでいました。そういう思いの親御さんが中心になるとその形も例えばいずれは毎日でしょうか。そうだったらどうしたらできるのかというのをそういう思いの人たちがまず集まって、周りの我々みたいな地域の人間が手伝えるところをサポートする。やっぱり主体は放課後子ども教室のお母さん方をメインに置いていく。我々も意見を出し合うのですが、何かこう隔週に1回という新たなモデル。今のままでまた雇ってとなると美和モデルとあまり変わらないイメージとなってしまいます。</p>
宮崎委員	<p>私もそれすごく思います。</p>
立松委員	<p>美和モデルもいいのですが、今ちょっと疲れた感がある感じがして。この先の継続性であるとか、何かこうほんとに親御さんたちがただ預ければいいっていう感じで、親御さんたちの主体性がちょっと見えてこない感じがします。最近の放課後子ども教室を見てないのでいけませんが。私たちの時も段々やっている間に指導するっていうか、そういうスタッフも疲れてきて、親御さんは預けっぱなしだしっていうところで何となくこう継続性が見いだせなかったというところがあって今の辻委員のご意見には非常に共感するところです。</p>
川原委員	<p>今継続性というお話が出ました。そのこれから継続していくつもりで始める訳ですよ。常にそこの当事者意識を持っている、今まさに現役のお母さんたちがやっていくとなるとやっぱり入れ替わりが必要になってくると思います。ずっと同じ人がやっていたらいつかどうするのってなって。でもその中で今のここまでのお話だと、指導に来て下さる講師、あとその有償ボランティアのスタッフ、現場の責任者っていうものがあって、その入れ替わってく人は入れ替わってく、軸になる責任者はきちんとした責任者としておいでいただけると安心して新しく入って来る人、指導していく人、当事者、常に当事者が変われると思うのですが。そこの現場の責任</p>

事務局	<p>者というものがどういった人を配置するというか。</p> <p>今考えていますのは、コーディネーターという役割の方とサブコーディネーターという役割の方、あとは安全管理員の役割、3つの役割を作っております。七宝の子ども教室につきましても、川原委員言われましたように、核となる方は必ず小学校に1人配置したい。保護者の方がスタッフとしておみえになった場合でも、今週は行けるが来週は行けない場合もあります。ただ保護者の方には来られる時だけでも来ていただきたいと考えております。保護者の方たちで団結していただきたい。ただ核となるスタッフは必ず1人毎回来ていただける人を作っていく、言われますように安心してお母さん方も参加していただけるような形を取れたらなと考えております。</p>
川原委員	<p>有償ボランティアさんとは別ということですね。</p>
事務局	<p>核となるコーディネーターとしてお願いしたいなど。</p>
川原委員	<p>分かりました。先ほど辻委員が言われた説明会を開催させることはすごくいいと思います。ただチラシを見て応募してくださいではなくて、説明会を聞きに来て、きちんと趣旨、目的、役割を理解してこの活動に賛同していただける方にお申し込みいただき、その上で選考していくっていう形が望ましいかなと思います。ただでさえ人員の確保が難しいという中でそれだけのことをしようと思うと、まずその説明会の周知を徹底して、とにかく多くの方にその存在を知っていただいて、まずは説明会に足を運んでくださる方を。あくまで理想ですけどどれも。いいかなと思いました。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。ほんとにプリントって案外お母さんたち目を通さないです。保護者の顔を見ながらの説明が大切だと思います。</p>
林委員	<p>核となるスタッフも1人ではなく2人でもいいと思う。</p>
村上委員	<p>今、色々とお話をお聞きしまして、ほんとに皆さん実感と</p>

	<p>して考えてらっしゃるということすごく分かりました。それで今、ここにも基本理念で地域の方で育てるっていう、育てていくっていうのは本当に大事だと思います。今お母さんたちやっぱり小学生の子たちのお父さん、お母さん、見てもやっぱり子どもに関心を持ってみえる人と、持っていない方とどのくらいの比率かって言われると私もそこまでタッチしてないので分からないですけども、何か関心がない方の保護者の方が多い気もしないでもないです。色々見ていると思います。うちの地域ですけど、そこもやっぱりお母さんたちにこういうことをやるので、皆私たちお手伝いしますからっていうほんとに周知っていうのは大事ですので、やっぱり保護者の方たちに周知が一番肝心かなっていうことは思います。お手伝いはいくらでもできます。皆さんこうやって出ていらっしゃる方、その仲間たちもいらっしゃると思いますので、お手伝いはできると思いますので。やっぱり保護者の方の理解が得られるといいなというふうに思っております。</p>
井村委員長	<p>お母さんたちに、子ども教室の基本の話をもっとしてもらいたい。</p>
立松委員	<p>私たちの時は、働いているお母さんのお子さんたちだけ、別ではなくて、そういう子たちも交流出来るようにということで、私たちがやっていた時は児童クラブの子たちもね、月曜日のこの時だけは一緒に体育館で遊んでそこから私たちスタッフが児童クラブに送って行きました。残りの時間6時とかぐらいまでお母さんが迎えに来るので頑張って預かっていました。今はもうセパレートされるっていうことですね。そうすると。</p>
事務局	<p>この放課後子ども教室で例えば、月に1回だとか3か月に1回だとかこれから続いて行く中で、児童クラブの子たちと子ども教室の子たちと一体型、一体となって色んなことも実施していける事業ではありますので、全くすべてを線引きする訳ではなく、交流も含めていながら実施していける事業です。また検討していきたいと考えております。</p>

宮崎委員	<p>やっぱり具体的な中身を周知していかないといけない。</p> <p>人間の結局中身、コミュニケーション能力とか例えばそこでケンカしてどうやって仲直りをしていくのかということも踏まえてなんだけれど、やっぱり家では学べないことを学校という場をお借りして皆で学んでいくという場にしていきたい。1つ考えているのは、子どもたちが色々な企画を練りあげていく。というそういう会議の場所にする。だから主体は子どもたちで。そうすると相手の意見とかも認め合うような子どもたちが揃っていくのではないかとことを思います。子どもたちがこう何日にイベント組むからどういうふうにやっついこうというふうに話し合いをしていながら放課後子ども教室を実施していく。イベントがない日はね、そういうのもいいかなと。</p>
川原委員	<p>ただ指導者として高度な技術が必要だと思います。</p>
宮崎委員	<p>そうですね。指導していかなきゃいけない。</p>
川原委員	<p>子どもたちから引き出すとか、子どもたちに考える場を実施していく方が。</p>
宮崎委員	<p>難しいですかね。</p>
川原委員	<p>難しいことだとは思いますが、そういう方向に行くのはすごくいいと思います。</p>
宮崎委員	<p>答えが1個だと、どうしてもその狭い世界の間しかできないような気がする。</p>
辻委員	<p>さっき、アクティブラーニングの話とコミュニケーションの話とかも出ていたと思いますが、すごくいいことだと思っていて。今、鬼ごっこをしようよとなっても、自分が鬼になると「もうやめた。」鬼ごっこが成り立たないとか。結構あります。名古屋の子たちの話なので、あま市の子とはまた性質が違うかもしれませんが、じゃんけんして鬼決めるのに10分も、20分かかります。本当にあります。そういうことが。声をかけずにずっと見守っていると、誰かが泣き出し</p>

	<p>てしまうことが結構あって。小さな事を決めるのに、子どもたちなりに相手の事を気にしすぎています。逆に気にしなさすぎたり。情報がもう多すぎて、世の中に。多分、処理仕切れないようなところがあって、生きにくかったりというのはすごく見てて思うんですけど。せっかく地域で子どもを育てよう、親も育てよう、地域の人も育てようということをしているので、本当に話し合っただけで次何をやりたいかとか、子どもたちがどんなことをしたいかっていうことを考える時間を設けられるとすごくいいんじゃないかと思います。それを教える人はやっぱりすごく大変だと思いますが、そういうことができるかと本当にいい七宝のモデルとして成り立っていくんじゃないかと思いました。</p>
<p>溝口委員</p>	<p>実施内容はもう決まっている訳ですから、これをいかにしてPRするのか、市民の皆さんに協力していただけるかということで。チラシ等を作って、昨日も子育て支援課のチラシ、回覧回ってきておりましたけどね。あとは掲示板ね。これを上手く活用していただければ、ある程度そういう情報が発信できるのではなからうかと私自身考えております。これは老人クラブもいえるわけですけどね。そういう情報発信して、市民の協力を得るということが、色んな会議に出させていただいておりますが、そういう感じは受けますね。是非そういった方法で実施も計画もきちんと決まっている訳ですから。これを全面に出しながら協力をお願いするという方向がいいのではなからうかと思っております。</p>
<p>林委員</p>	<p>9月に実施するところを書いてあるようにエアコンがない教室については、対策が必要と書いてありますが何かそこら辺の対策らしきものはあるのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>一番の対策はエアコンがある部屋を利用させてもらう。それが利用できないということであれば、10月若しくは9月中旬ぐらいまではエアコンの無い教室をやめて、空く日程を取るのか。それとも取れなければ10月開始とするのか。当然水筒を2個持って参加してもらって、そういった水分補給の問題。そういったことも考えていけばいいかなというようには思っております。</p>

井村委員長	まだまだ暑いですよ、9月って。
林委員	そんな慌てて9月から催すんじゃないで。
井村委員長	確かにまだ。大変だと思いますよ。
林委員	10月からでもいいかなとも思いました。
事務局	そういったことを調整して行って、9月の方は実施を考えております。
立松委員	<p>年10回じゃないですか。さっきメインになる方、コーディネーターの方とかサブコーディネーターの方。固定の方はやっぱりいた方がいいと思っているのは、実はたった10回っていうことはほんとに1か月に2回しか会わない、しかも2時間あるかないかで。信頼関係、子どもたちって信頼関係築くのに時間がかかると思うんですね。もちろん地域の人が入れ替わり来てその場だけっていう方々とはなかなかね、1回で終わりなので、なるべくさっき言った地域っていうのはそういう意味でも地域の人たちの信頼関係を築く、見守りやった人がまた来るとかっていう、顔が見えるし、顔が近い関係になれるっていう昔のご近所さん付き合いの、その繋がりをね、あの人会ったことあるから。親しくなってね、そうすると少々のことを叱ったり駄目なことは駄目って言える地域になっていけると思うんですね。最近やっぱり怒れないとか、信頼関係がないと怒れないですし、怒ることがいいことではないですけど、やっぱり駄目なことは駄目って言っていないといけないし、小さな核家族で出来ないことが地域社会で出来ていくというのも1つのね、この放課後子ども教室の目的だと思うので。わりとこう目に見える方、私たちずっと何年もやっていて同じ子どもたちが何年も来て、結構同じ子たちと信頼関係を作って、暫くぶりに会っても、大学生とかね、大人になって、「あの時の」って言って覚えてくれたり。あの時小さくて2年目になったら成長して、大人になって言う事を聞いてくれるようになっていたりとかね。ケンカが始まっても、駄目なことは駄目っていう話が出来たりと</p>

川原委員	<p>か。信頼関係作りも大事なことかなと。そういった意味でもコーディネーターさんの役割って結構重要だと思っています。</p> <p>有償ボランティアのスタッフには謝礼金が、お母さんたちというお話だったんですが、それ以外の方にもやっぱり関わっていただくっていうふうになると思うのですが、その辺りの周知とか、どういう方を想定してらっしゃるんですか。</p> <p>有償ボランティアさんとして。例えば地域の老人会の方であつたりとかあると思うのですが。全員が全員お母さんという感じでしょうか。</p>
事務局	<p>そういう訳ではないです。地域の老人クラブの方、コミュニティの方、子ども会の方たちだとか、そういった方たちにも協力していただけるように働きかけはしていこうと思っております。</p>
川原委員	<p>いろんな方が取り混ぜた感じの。スタッフさんなんですね。</p>
事務局	<p>そういった方たちがたくさん集まれば集まるほど回数は増えていきますので。</p>
宮崎委員	<p>目的は毎日開催で、ここで仕事するんだぞっていうような。</p>
立松委員	<p>名古屋のトワイライトみたいな感じで児童クラブもその放課後もね、ある程度共有できるように学校という拠点でね。今児童館とかでやっているところもあるし、児童クラブ自体がね。学校が拠点になると両方が共有しやすい。</p>
宮崎委員	<p>入学式の時とか皆が絶対に揃うじゃないですか。そういう時にまず周知してみてもは。</p>
井村委員長	<p>ほぼ、皆さん出席率がいいと思いますね、それは。ほぼお母さんたちは、多分入学式、スタートには。</p>

立松委員	入学式、でも1年生しかいないですよ、親は。
宮崎委員	保育園の年長の保護者とか。
井村委員長	やっぱりお母さんたちの集まるそういう機会というのは逃さない方がいいですよ。
宮崎委員	高学年の親が聞くよりも、低学年の親が聞いた方がじゃあ入れる期間が長いから、試しに入れようかって考えたり。
事務局	入学式の意見もそうですが、今年年長さんの子。年長さんの周知だとか、そういったことも周知に繋がると窓口におみえの方たちのご意見等もございましたので、そういったことも検討して行って周知していきたいとは考えております。
井村委員長	そうですね。色んなところでそういうチャンスがあったらね、ほんと多分これ出すよりは絶対広まります。プリントだけでは。
林委員	一応小学校としては、伊福と秋竹という話で。決まったという話でよろしいですか。
事務局	決まりました。
林委員	分かりました。
事務局	今、林委員言われましたけど、この研究会でいただきました意見を踏まえ、伊福小と秋竹小。あと定員は40名ということで考えさせていただいて、実施回数も10回ということを目途に考えていきます。実施プログラムについては案ではございますが、実施していきながら、回数、1回目、2回目の研究会での意見でもありました、放課後子ども教室は何をやるのか、名前すら知らないという保護者の方もおみえになるというお言葉もいただいておりますので、子ども教室とはということから周知していきたいと考えておりますので、お願いいたします。

井村委員長	では、以上で本日のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会いたします。それでは次回3月27日水曜日9時半から甚目寺庁舎2階第1会議室で開催いたします。
-------	--